# 第4章 都市づくりの課題

幕別町の都市づくりは、これまで人口の推移にあわせ快適な都市生活に必要な施設整備を進めてきましたが、人口減少やさらなる少子高齢化等の社会情勢の変化によって生じる空き地・空き家問題や既存ストック\*14の有効な活用方法、また、地球温暖化がもたらす異常気象により多発する災害への対応など、これら諸問題の解決を目指していく必要があります。

### (1) 少子高齢化に対応した都市の形成

幕別町の人口は平成 17 年以降横ばい傾向を示していましたが、今後減少傾向で推移し、 少子高齢化の状況もさらに進行することが予測されます。

このことから、人口減少と少子高齢化に対応した円滑な移動を確保するため、公共交通機関の維持や利便性の向上や、ユニバーサルデザイン\*15に配慮した誰にでもやさしい施設などが求められています。

### (2) 既成市街地における活力低下への対応

新たに開発された住宅地では、住宅の建築が進み人口が増加している一方で、既成市街地では、人口減少や高齢化に伴って空き地・空き家が増加し、市街地の空洞化が問題視されています。また、JR駅周辺の商業地では、空き店舗がみられるなど商店街の活性化対策や買物環境の利便性向上が求められています。

このことから、空き地・空き家の活用等による移住・定住の促進や、人口減少及び少子高齢化を見据えた活気に満ちた商店街づくりを目指す必要があります。

## (3)公共施設やインフラ施設\*16の有効活用と適正管理

幕別町は、昭和50年代から帯広市のベッドタウンとして市街地の拡大により人口が増加し、町民ニーズに応じて公共施設等を整備してきました。

そのため当時の施設の老朽化が進行しており、大規模な改修や更新により多額の維持更新 費用を要することが見込まれます。

このことから、人口減少・少子高齢化など時代の変化に対応した施設のあり方や効率的・効果的な活用方法、公共施設等の適正な配置を進めていく必要があります。

都市における既存ストックとは、今まで整備されてきた道路、公園、下水道や公共施設、建築物等の都市施設のことです。

#### 15 ユニバーサルデザイン

障がいの有無、年齢や性別、言語などにかかわりなく、誰もが等しく安全で便利に使いやすいように都市や建 物、製品や道具などをデザインすることです。

#### 16 インフラ施設

国民福祉の向上と国民経済の発展に必要な公共施設を指し、インフラストラクチャー(略称:インフラ)とも言います。道路、公園、河川、空港、港湾、上・下水道、学校、病院、公営住宅、電気、ガス、通信など、社会的経済基盤と社会的生産基盤とを形成する総称ですが、一般的には、国や地方自治体が実施する公共事業で整備されたものを指します。

<sup>14</sup> 既存ストック

一方道路に関しては、人口増加などの社会情勢に応じた道路網の形成を図ってきましたが、 さらなる都市内交通及び都市間交通の利便性及び安全性の向上が求められています。

このことから、今後においても主要幹線道路等の整備を国・道に要請していくとともに、 その他、長期未着手の都市計画道路については見直しを含む適正な整備に努め、既存の住商 工の土地利用や地域ならではの産業創出などの沿道土地利用を含め、将来の都市づくりを考 慮した道路網を形成する必要があります。

### (4) 自然環境との共生と安全・安心な都市の形成

幕別町には十勝川とその支流の河川が複数流れ、川に挟まれた平地や丘陵地には良好な自然環境が残されています。

こうした緑豊かな自然環境との共生を目指して、市街地を囲む河川と広陵地の緑を保全するとともに市街地内の緑化に努めて、水と緑が豊かな潤いのある都市づくりを進める必要があります。

また、平成 28 年の台風による浸水被害や平成 30 年の胆振東部地震によるブラックアウトなど自然災害による被害が発生し、町民の防災に対する意識が高まってきており、今後策定する国土強靱化地域計画に基づいた都市づくりを進める必要があります。



魚道観察室「ととろーど」



幕別駅前 幕別大通